



「階層構造の安定性と流動化の共存」

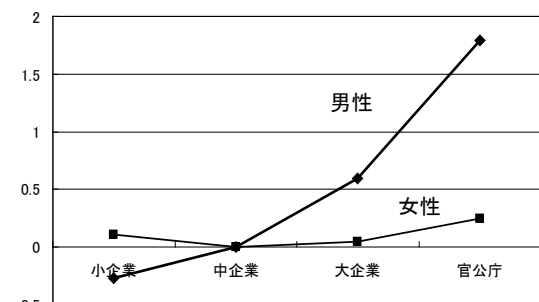
（平成 16～19 年度 特別推進研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」）

所属・氏名：東北大学・大学院文学研究科・教授・佐藤 嘉倫

1. 研究期間中の研究成果

・背景

研究プロジェクトを始めた頃、フリーターの増加や中高年労働者のリストラが世間を賑わせていた。しかしフリーターになる人々やリストラされる人々とそうならない人々の間に何か違いがあるのではないか、それは社会階層の違いではないか、という関心からプロジェクトを推進した。



男女別・企業規模別の初職継続期間の違い  
出所：中澤渉（2008）

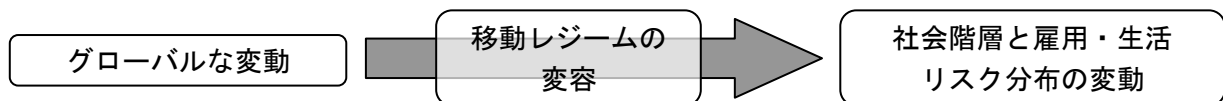
・研究内容及び成果の概要

2005年に日本、韓国、台湾で社会調査を行い、そのデータを分析した結果、社会階層の中核にいる人々は安定的な雇用慣行に守られているのに対し、周辺部分にいる人々はグローバル化などの影響で流動性がますます高まっていることが明らかになった。

2. 研究期間終了後の効果・効用

・研究期間終了後の取組及び現状

このように人々の属する階層の違いによってグローバル化の影響が異なるのは特定の階層を保護している社会の制度がグローバル化に対してゆっくり反応するか速く反応するかの違いがあるからである。この違いに注目して、社会の制度が人々の間で雇用の安定性やリスクの違い（格差）を生み出すと考えて、現在研究を進めている。



・波及効果

本研究プロジェクトは基本的に社会学のプロジェクトだが、研究成果は経済学者の注目も集めていて、お互いに連携しながら不平等や格差の研究を進めている。また行政機関に対しても講演や調査委託などを通じて研究成果の還元を行っている。